

得水法による風水集落の地形構造の把握と構成要素の抽出
—韓国農村集落における風水景観に関する研究 その10—

準会員 ○野村 優太^{※1} 正会員 佐藤 誠治^{※2}
同 山口 泰佑^{※3} 同 樋口 夏希^{※3}

7. 都市計画 — 6. 景観と都市計画 c. 景観イメージ・景観評価
韓国 風水 地形構造 景観 集落

1. はじめに

風水説の構成は山、水、方位、人間の4者の組み合わせで成立し、具体的には看龍法、藏風法、得水法、定穴法、坐向論、形局論等の形式論理をもっている¹⁾。

本研究では、風水が地形と人間の営みを結びつける極めて環境重視の作法であると認識している。この環境を重んじる風水を研究することは、周囲の環境を作り変えようとしがちな、現代の景観を考え直す一環となると考え、本研究では、風水によって解釈される景観を「風水景観」と定義し、景観に対する風水関与の事実関係を明らかにすることを目的としている。

これまでの研究^{2)~10)}では、風水説の構成要素の中でも、特に山について重視し、景観との事実関係を明らかにした。本研究では、山に加え、水の要素についても重点を置き、風水と景観の関係について分析・考察を行う。

2. 研究の概要

2-1. 研究の方法と目的

本研究では、現地調査での景観写真の撮影と、風水認知に関するヒアリング、また Daum¹¹⁾等の地図サイトによって得られた情報をもとに、風水集落の地形構造と景観的特徴の把握を行う。本稿では、地形構造による分類を行い、風水集落の地形構造的特徴を明らかにし、また、集落の構成要素を明らかにすることを目的とする。

2-2. 研究対象地域について

本研究では韓国の中心部、安東(アンドン)・榮州(ヨンジュ)を対象に現地調査を行った。調査日時は2012年8月5日から8月8日であり、調査内容は各ポイントにおける景観写真の撮影と、集落住民への風水認知に関するヒアリングである。

調査対象地には、安東・榮州の中でも、朝鮮半島を南北に走る太白山脈に水源を持つ洛東江(ナクトンガン)沿いであり、その中でも川が特徴的に流れる部分に隣接する、14集落を選定した。集落名は表1のとおりである。

今回、安東・榮州の14集落を対象としたのは、韓国の風水において重視される白頭山から、太白山脈・小白山脈へと続く気の流れの中にあること、また、洛東江が特徴的に蛇行し流れているため、風水の理想的な地形とされている背山臨水の吉地が多く存在すると考えたからである。実際に、この14集落の内4集落は、韓国風水における四大吉地^{※1)}とされているハフェ里、タクシル里、チョンジョン里、トゲ里であり、風水集落として有名である。このように対象地域周辺には吉地が数多く存在している。

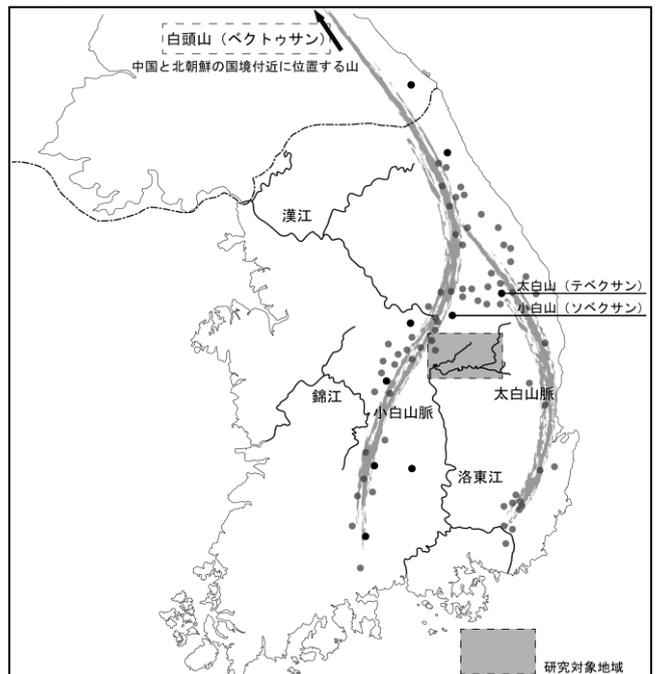


図1 研究対象地域

表1 集落名と対応No

No	集落名	No	集落名
A	クムグァン里	H	マエ里
B	スド里	I	タンチョン里
C	チョゼ里	J	トチョン里
D	シンウォル里	K	ユコク里
E	テウン里	L	チョンジョン里
F	サムガン里	M	トゲ里
G	ハフェ里	N	ミホリ里

3. 地形構造の特徴把握

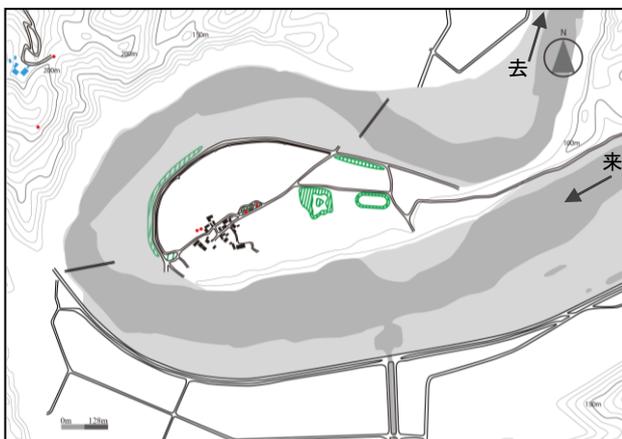
3-1. 研究で用いる得水法の理論

今回の対象集落は、洛東江（ナクトンガン）の中でも、大きく蛇行して流れる部分に面しており、風水の形式論理の中でも特に得水法の関与が強いと考えられる。

風水によって集落選定を行う方法には大きく「理気」、
「巒頭（らんとう）」¹²⁾の2つがある。理気とは、陰陽五行や方位など目に見えないもので判断する方法である。また、巒頭とは、その土地の気の勢いや質を地形等の形成を目に見える、形あるもので判断する方法である。巒頭は大地そのものに作用し、大地にある建物にも作用するため、この巒頭を考慮するという事は、大地そのものである場所を考慮することであると風水では考えられている。よって本稿では、地形構造との関わりが強く反映される景観に、より影響を及ぼすと考えられる巒頭による判断をもとに、研究を進めていくこととする。

巒頭による水の形と流れの判断を「水局」と呼ぶ。図2は「地理啖蔗録（ちりたんしょろく）」^{注2)}の水局図である。これは穴^{注3)}に対する川の流れ方による水の看方を簡略図にて示したものである。

また、巒頭には重大な7つの水局として、路沖、玉帯水、九曲水、海波浪水、満堂水、反弓水、八字水がある。今回の対象集落においては、この7つの水局のうち、玉帯水と九曲水の、2つの水局を確認した。玉帯水は、来水から去水までの明堂を取り巻く形が重要とされており、この水局の龍穴及び明堂は、主を守り財と富貴に富むとされる。また、その取り巻き方によって金星水城に判断されることもある。九曲水は曲がりくねった来水の形が重要であり、福をもたらすとされている。水星水城は来水の場合には九曲水とも言える。



玉帯水		玉帯水とは、明堂を取り巻く腰の帯のような形の水の流れが理想とされ、そのような龍穴及び明堂は主を守り財と富貴に富むとされる
金星水城		水城とは穴の前にある河のことであり、金星水城は湾曲し環のように抱いている形を指す健康にもよく財をなすとされる
土星水城		土星の形をした水城であり、水の流れが緩慢であれば、学問に秀でて、有名になる人を輩出するとされる
九曲水		必ず陰陽宅の前面の曲がりくねった来水を言う福をもたらすとされる水である
水星水城		水星の水城は、明堂前の曲がりくねった水を表し、社会的な地位の高さやお金持ちになることを意味する
拱背水		水が後ろからやって来て、穴の後ろを取り巻く発財が長く続き、富貴に恵まれるとされる
龍逆関		龍逆関とは、明堂から見て、水が左回りであること、青龍砂が伸びて白虎砂を包む形をしていることであり、逆関は吉とされる
虎逆関		虎逆関とは、明堂から見て、水が右回りであること、白虎砂が伸びて青龍砂を包む形をしていることであり、逆関は吉とされる

図2 「地理啖蔗録」の水局図

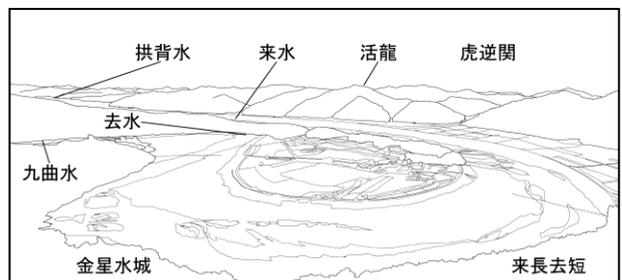


図3 集落周辺地図（左）とパノラマ写真（右下），線画後（右上） ex)テウン里

3-2. 地形構造分類

図2の水局をもとに、集落周辺地図と集落全体を写したパノラマ写真(図2)により、各集落に適合する水局を確認し、更に、「閉鎖」「合水」「開放」の三つに細分化し、地形構造の分類(図4、表2)と特徴把握を行った。

まず1つ目は「玉帯・閉鎖型」集落である。このグループは玉帯水、拱背水に合致しており、川が集落の後方まで強く巻き込むように流れているため、集落が島のようになっており、また主山^{註4}が集落に向かって細く伸びている。A(クムグァン里)、B(スドリ)、E(テウン里)、G(ハフェ里)の4集落がこのグループに分類された。

2つ目は「玉帯・合水型」集落である。このグループは川の合水部分に位置し玉帯水、九曲水、拱背水に合致している。構造的な特徴は玉帯・閉鎖型に合水が加わった型ということである。2本の来水の内、案山^{註5}側から流れて来る川が九曲水となっている。F(サムガン里)、J(トチョン里)の2集落がこのグループに分類された。

3つ目は「合水・閉鎖型」集落である。この集落は川の合水部分に位置し拱背水に合致しており、集落を取り囲むように川が流れているため、主山が細く伸びている。K(ユコク里)の1集落がこのグループに分類された。

4つ目は「玉帯・開放型集落」である。このグループは玉帯水、金星水域に合致しているが、拱背水に合致しておらず川の巻き込みが弱いため主山が集落に向かって細く伸びず連なりをつくり広がっている。C(チョゼ里)、D(シンウォル里)、H(マエ里)、I(タンチョン里)、L(チョンジョン里)5集落がこのグループに分類された。

5つ目は「蔵風・得水型集落」である。このグループは玉帯水に合致しておらず、川が集落を巻き込むように流れていない。よって、集落が山に囲まれ前方に川が流れる蔵風・得水型の集落である。M(トゲ里)、N(ミホリ里)の2集落がこのグループに分類された。

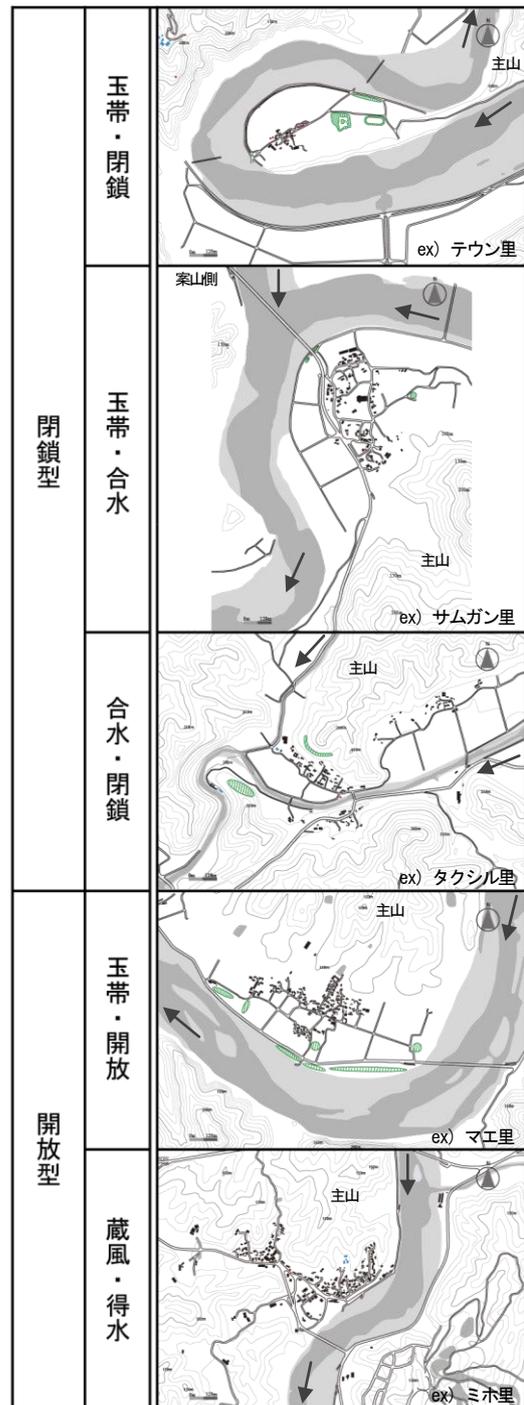


図4 地形構造分類

表2 水局の適合による分類

分類	集落名	水局										
		玉帯水	金星水域	土星水域	九曲水	水星水域	拱背水	龍逆関	虎逆関	活龍	合水定穴	来長去短
玉帯・閉鎖	A(クムグァン里)	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×	○
	B(スドリ)	○	×	○	×	○	○	○	×	×	×	○
	E(テウン里)	○	○	×	×	○	○	×	○	○	×	○
	G(ハフェ里)	○	○	×	×	○	○	×	○	○	×	○
玉帯・合水	F(サムガン里)	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○
	J(トチョン里)	○	×	○	○	○	○	×	×	○	○	×
合水・閉鎖	K(ユコク里)	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○
玉帯・開放	C(チョゼ里)	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○
	D(シンウォル里)	○	×	○	×	×	×	×	○	○	×	×
	H(マエ里)	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	○
	I(タンチョン里)	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×
蔵風・得水	L(チョンジョン里)	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	○
	M(トゲ里)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	N(ミホリ里)	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×

表3 各集落の構成要素

集落名	要素								
	亭	樹木	碑補林	石碑	祠堂	寺院	墓	対岸の視点場	対岸の祠堂
A(クムゲン里)	×	×	×	○	○	×	×	×	×
B(スドリ)	○	○	○	×	○	×	×	○	○
C(チョゼ里)	○	○	○	×	×	×	×	○	○
D(シンウォル里)	×	×	○	○	×	×	○	○	○
E(テウン里)	○	○	○	○	×	○	×	○	○
F(サムガン里)	○	○	○	×	×	×	×	○	×
G(ハフェ里)	○	○	○	×	○	○	○	○	○
H(マエ里)	○	○	○	○	×	×	×	×	×
I(タンジョン里)	×	×	×	○	×	×	×	×	×
J(トジョン里)	○	○	×	○	×	○	○	○	×
K(タクシル里)	○	○	○	×	○	×	×	×	○
L(チョンジョン里)	○	○	○	×	○	○	×	×	○
M(トゲ里)	×	○	×	×	○	○	×	○	○
N(ミホリ里)	○	×	×	×	×	○	×	×	○

4. 風水集落構成要素の分布

風水集落を構成する要素を把握するため、Daumの地図を線画化し、集落内の要素の確認を行った。(表3)

今回、調査を行った集落の内、亭と樹木が存在する集落はそれぞれ10/14集落、碑補林が存在する集落は9/14集落と、風水に関する要素を60%以上の集落で確認することができた。また、14集落のうち8つの集落で、川の対岸に集落を見渡すことのできる視点場が存在することや、対岸に祠堂を作っている集落が9集落も存在することから、今回調査した集落では、川の対岸という場所を重視していると考えられる。対岸の視点場と景観の関係については本研究のその11で分析を行う。

5. 総括

本稿では3章において、風水の理論の1つである「巒頭」による分析を行った。水の形と流れの判断の方法である「水局」から地形構造の分類を行い、「玉帯・閉鎖型」集落、玉帯・合水型」集落、「合水・閉鎖型」集落、「玉帯・開放型」集落、「蔵風・得水型」集落の5つに分類し、それぞれの地形構造の特徴を把握した。この特徴が、各集落の景観とつながっている為、今後、この結果をもとに景観的評価を行っていく必要がある。

4章では、風水集落の構成要素の分布を確認し、特徴の把握を行った。その結果、60%以上の集落で亭、樹木、碑補林といった、風水に関する要素を確認した。また、川の対岸に視点場となる場所が存在する集落が約60%であり、重要な建物である祠堂を作っている集落も半数をこえていたことから、川の対岸を重要な場所と位置づけていると考えられる。

【参考文献】

- 1) 崔昌祚：「韓国の風水思想」, 人文書院, 1997年
 - 2) 野口浩平・佐藤誠治・小林祐司・姫野由香・山口泰佑：「韓国農村集落における風水景観に関する研究 その1 - 農村集落景観調査による風水と景観の関係の把握 -」, 日本建築学会九州支部研究報告, No.50, 301-304, 2011.3
 - 3) 山口泰佑・佐藤誠治・小林祐司・姫野由香・野口浩平：「韓国農村集落における風水景観に関する研究 その2 - 風景写真による景観分析 -」, 日本建築学会九州支部研究報告, No.50, 305-308, 2011.3
 - 4) 野口浩平・佐藤誠治・姫野由香・山口泰佑：「開放型風水景観の特徴把握 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その3 -」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2011.8
 - 5) 山口泰佑・佐藤誠治・姫野由香・野口浩平：「閉鎖型風水景観の特徴把握 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その4 -」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2011.8
 - 6) 野口浩平・佐藤誠治・小林祐司・姫野由香・山口泰佑・樋口夏希：「風水思想のもつフラクタルな特性 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その5 -」, 日本建築学会九州支部研究報告, No.51, 469-472, 2012.3
 - 7) 樋口夏希・佐藤誠治・小林祐司・姫野由香・野口浩平・山口泰佑：「山で囲繞された韓国風水集落の景観 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その6 -」, 日本建築学会九州支部研究報告, No.51, 473-476, 2012.3
 - 8) 山口泰佑・佐藤誠治・小林祐司・姫野由香・野口浩平・樋口夏希：「盆地内の集落からみた重畳感のある景観 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その7 -」, 日本建築学会九州支部研究報告, No.51, 477-480, 2012.3
 - 9) 山口泰佑・佐藤誠治・姫野由香・樋口夏希：「定穴法からみた風水景観 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その8 -」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2012.8
 - 10) 樋口夏希・佐藤誠治・姫野由香・山口泰佑：「風水景観および風水思想と地形の関連に関する研究 - 韓国農村集落における風水景観に関する研究 その9 -」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2012.8
 - 11) 「Daum」, 韓国地図サイト, <http://local.daum.net/map/index.jsp>
 - 12) 呉佳綺・山道帰一：「完全定本[実践]風水地理大全」河出書房新社
- 【補注】
- 注1) 一般に流布されている四大吉地は、本稿で取り上げたハフェ里、タクシル里、チョンジョン里、トゲ里を指す場合の他にその内の一か所を良洞(ヤンドン)マウルに替えて呼ぶ場合などがある。
- 注2) 乾隆20(1755)年、袁守定(えんしゅてい)著
- 注3) 穴とは風水の要諦であり、風水ではここに墓や家造ることにより影響が得られると考えられているので、風水の術はこの穴を探すことを目的としている。
- 注4) 主山とは集落の背後に高くそびえる山である。
- 注5) 案山とは集落を挟んで主山の反対側にある小山を指す。

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生
 *2 大分大学工学部福祉環境工学科 教授 工学博士
 *3 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*1 Undergraduate Student, Oita Univ.
 *2 Professor, Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., DrEng
 *3 Graduate Student, Oita Univ.